

令和6年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立御園中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基本的な知識を定期考査等で確認し、ある程度の定着を図ることができた。
- ・身の回りで活用されている事例と関連づけて、実生活に生かす工夫について考える時間を設定することができた。

(2) 課題

- ・ICT機器を活用したワークシート等の活用能力やタイピングの速度に個人差が見られる。
- ・作業途中でのつまづきに対して、自ら解決しようとする意識が低い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

学習効果測定未実施のため、授業の様子や小テスト、定期テスト等の結果をもとに、分析・授業改善を行う。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な知識が乏しく、学習習慣が身につけていない生徒が多い。	生活と関連づけて物事を判断したり、それを活用したりしようとする意識が低い生徒が見受けられる。	製作に対する意欲は高いが、その仕組みについて考えようとする意識が低い生徒が見受けられる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な知識は定着している生徒が多くなってきた。	状況により、最適解を導き出そうと、深く考える力に課題が見られる。	新しい知識を得ようとする意欲や、制作に対する意欲は高い。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学習内容の習得が早くなった。テスト等でも6割程度の生徒が定着していると思われる。	先を見通した思考力、判断力に課題が見受けられる。	授業に対する主体性は高い生徒が多い。貪欲に評価を上げようとしている生徒が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
動画や画像を活用し、視覚的に知識が定着できるようにするとともに、実際の製作に生かせるように関連づけた指導を心がける。	「なぜ」「どうして」を考える時間を多く設定し、思考力の向上を図る。	I C T機器を活用し、自分の活動をすぐに振り返ることができるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の授業と作業の授業を二分せず、組み合わせて関連性を意識し、小野得たことをすぐに実践することで定着を図る。	つまづきに対して答えを教えるのではなく、原因と対策、未然防止のためにはどうしたらよいかを考えさせる。	高い主体性を継続するために、できたことに対して認める声かけを意識する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定着した知識が実生活のどのような場面で生かされるのかを考えさせ、「生きる知識」として活用できるよう指導する。	自分たちがこれから担っていく社会において、必要な考え方や行動などを、具体例を示しながら考える授業を意識する。	成績を上げるためだけでなく、「自分に必要だ」と思わせる授業展開を心がける。I C T機器の活用に関心をもち、情報処理能力の向上に努める。